

緑化木の耐暑・耐乾対策についての調査 (平成31年度～33年度)

1 調査目的

近年、日本の夏の平均気温は上昇傾向が続いており、昨年（平成30年）は名古屋でも40.3℃の最高気温を記録し、観測史上初めて40℃を超えました。

今後も夏期の高温傾向が継続することが懸念され、苗木の生産現場や公園・緑地などでは暑さや乾燥から緑化木を守るための対策が必要となります。

そこで、緑化木の暑さ対策、乾燥対策として効果的な方法を探るとともに、暑さ・乾燥に強い樹種を選定するための調査を行っています。

2 調査方法

次のとおり、暑さや土壌の乾燥を緩和するための様々な方法を試行して、その効果を検証します。

併せて、広く流通している樹種の暑さ・乾燥に対する耐性を調べて、植栽樹種を選定する際に参考となる資料を作成します。

(1) 緑化木の暑さ対策についての調査

- ①寒冷紗で遮光し、日差しや気温上昇を緩和する効果を調べます。
- ②グラウンドカバー等で地表面を覆い、地表面の温度の上昇を緩和する効果を調べます。

(2) 植栽土壌の乾燥対策についての調査

- ①畑土に堆肥を混入し、保水力を高める（土中水分の保持）効果を調べます。
- ②グラウンドカバー等で地表面を覆い、土中の乾燥を緩和する効果を調べます。
- ③効率的な散水方法を調べます。

(3) 緑化木の耐暑・耐乾性についての調査

暑さ・乾燥対策には、これらに耐性の強い樹種を植栽することも大切ですので、広く流通している樹種を条件の異なる調査区に植栽して、暑さ・乾燥に対する耐性を調査します。